

2026 年度 長岡崇徳大学
一般選抜試験 I 期試験問題

「国語」

注意事項

試験開始の合図があるまでこの用紙を開かないでください。

1. 試験時間は60分です。
2. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
3. 解答用紙には受験番号、氏名を必ず記入してください。
4. 問題用紙に印刷不鮮明、ページの乱丁・落丁及び、解答用紙の汚れ
等に気づいた場合は手を高く挙げ、監督者に知らせてください。
5. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。
6. 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめ、退室とします。

長岡崇徳大学 令和八年度 一般一期 入学試験問題

国語総合（古文・漢文を除く）

受験番号

氏 名

第1問 次の文章を読んで各問に答えなさい。

Ⅰフィジーという国にはおおざっぱに言って、インド系フィジー人とフィジー系フィジー人が半分ずつ住んでいる。インド系フィジー人の多くが話すヒンディー語は、A周知のとおり、遠い昔サンスクリットの時代から文字があった。一方フィジー語の方はたとえば、現在でこそ音韻体系に即した①リッパな正書法が普及しているが、十九世紀半ばまでは文字がなかった。もちろん、ヒンディー語を話す人が皆文字を書く生活をしていないわけではない、というのはつい最近までの日本の事情と同じである。ただ、文字と言うもののそのものがその言語にあるかないかで、社会におけるさまざまなものごとの仕組みが違ってくるのは事実である。そして、私自身はフィジー語を研究するためにこの国を訪れるから、②ヒツゼン的に「耳で聞く言語」を話す人たちとの付き合いの方が多くなる。

Ⅱ初めてフィジー人一家のもとに滞在したとき、思いがけず発見し驚いたのが「筆記用具が家のなかにはない」ということであつた。書くものがないのだから、小さな子どもがいる家にも落書きがほとんどない。つまり彼らは、鉛筆もボールペンも手にとらずに何か月、いや場合によっては何年も暮らしているのである。村を発つ日が近くなり、首都に住んでいる娘さんに手紙を持って行きましようかと申し出ると、まず彼らがしたことは私に紙と鉛筆を借りることであつた。

Ⅲ「目で見る言語」の話者と「耳で聞く言語」の話者の違いが最も③顕著に表れるのは外国語を学ぶときだと私は思う。日本語話者は一般に耳から聞いて覚えるのが苦手であることが多い。何度も何度も繰り返して発音してもらっても、結局は綴りを言ってもらってノートに書き留めたり手で書くまねをしなくては感覚的につかめない。やっと覚えたと思ってもしばらくたつと忘れてしまつて、またノートをひっぱり出して記憶を新たにすることになる。逆に、綴りやどんな漢字を書くのかを聞きさえすれば記憶のなかに④案内すんなり入つてしまふ、というのは多くの人に同意していただける事実だと思う。

ⅣBそういった部類の民族に属する私は、あるときフィジーの村で「日本語を教えてください」と頼まれさつそく紙と鉛筆をとりだした。「わたしは□□へ行きます」と書いて、空欄に入ることばをこれでもか、というようにならべあげたのである。彼らは忍耐強く待っていて、そして一文字だつて読もうとはしなかった。そして、やっと顔をあげ鉛筆をおいた私がなげなく一度発音した文を、各自で何度も⑤復唱しながら覚えてしまったのである。彼らにとつてはそれが「言葉を学ぶ」方法だつたのだ。「書いたものを見る」という習慣がないから、記録とは暗唱することである。きつと、私がなを紙の上に書いていたかにさえ気が付かなかったに違いない。そして、「書く」というバックアップがない状況における人間の記憶の確かさ！一年後に私が同じ村をたずねたときにも彼らはやっぱりその文を覚えていて、私に話しかけてみせるのだつた。

V こういう目で西洋式の学校制度というのを見てみると、それがいかにC「目で見る言語」を話す人々のためにできているかに気付く。黒板に書いたものを読み、ノートに書き取って綴りを覚えるという方法そのものが、そもそも「耳で聞く言語」を話す人々の文化にはない。結果として「目で見る言語」の文化にどっぷりつかっている教師は、(D) はよくできるけれど、(E) はだめだとF「こぼす」ことになる。

VI …といったようなことをフィジーの首都スバで日本語教育に携わる友人に話してみたのではあるが、最初に述べたように、伝言ゲームをすれば二人目でたちまち内容が変わってしまう民族にとっては、これはやはり想像を超えた世界なのである。「だって書いたらずっと残るけど、記憶はかならず薄れていくものじゃない」というのが⑥ユイツイ、彼女から得た反応であった。もつともである。私だってそう思う。でも、G書いたものを読まない人にとつては、風が吹けばどこかへ消え去ってしまう紙切れの上の文字よりも、人間の記憶の方がずっとずっと確かで永遠なのである。

(菊澤律子「目で見る言語・耳で聞く言語」より)

問一 傍線部①～⑥の漢字には読み仮名を振り、カタカナは漢字に直して解答欄に書きなさい。

問二 傍線部A「周知のとおり」、F「こぼす」の本文中での意味として適切な内容を、解答欄に書きなさい。

問三 傍線部B「そういった部類の民族に属する私」とあるが、本文の筆者が属する集団を最も端的に言い表している言葉を形式段落のⅢから十一字(句読点を含む)で抜き出し、解答欄に書きなさい。

問四 傍線部C『目で見る言語』を話す人々」とは、どのような特徴を持つ集団なのか。形式段落のⅥからそれに最も近い意味を持つ表現を三十字以内で探し出し、「～という特徴」に接続するように解答欄に書きなさい。

問五 空欄部のDとEには、「インド系フィジー人」か、「フィジー系フィジー人」のどちらかの言葉が入る。両者は、それぞれ言語の習得に関して、どのような特徴を持つ集団なのかを考え、DとEに入る適切な言葉(インド系フィジー人、フィジー系フィジー人のどちらか)を解答欄に書きなさい。

問六 傍線部G「書いたものを読まない人にとっては、風が吹けばどこかへ消え去ってしまう紙切れの上の文字よりも、人間の記憶の方がずっとずっと確かで永遠なのである」を具体的な行動で表す五十字以内の一文を形式段落Ⅳから探し出し、解答欄に書きなさい。

第2問 次の文章は、菊池寛の小説で江戸時代の豪商にまつわる不思議な出来事を描いている。主人公の藤兵衛は加賀の前田家の御用を勤める商人で、祖父の代から弁財天を信仰しており、熱心さのあまり、自宅の庭にある池にも上野にある不忍池の弁財天になぞらえた小さな社を作っていた。その頃、將軍が上野の寛永寺へお成りになるといふことで、一度、不忍池をさらつてきれいにしようという企てがあり、信仰心の厚い藤兵衛は、聖地である不忍池が踏み荒らされると秘かに憤慨していた。この場面に続く文章を読んで各問に答えなさい。

その夜のことである。商家の常として、たいてい亥の刻には、床につくのである。彼が、ちように寝衣に着換えようとしている時に、店の方を隠退して、奥の方の取り締りをしている吉兵衛という老番頭が、寝室へはいつて来た。顔色が、尋常でないので、

「どうした？」

と、藤兵衛の方から声をかけた。

「御来客でございます」

声が少しふるえている。

「こんなに遅く、どなた様じゃ」

「見知らない御女中様でございます」

いよいよ面妖である。

「どちら様の……」

「何とも仰せられません。御主人にじきじきに会ってからと、仰せられます。加賀様のお奥の方かとも思われます。お伴の方も、お籠衆のほかは、お女中衆ばかりでございます」

「ううむ」

夜中の客といえば、親戚縁者以外は、よほどのA昵懇じふくの人である。それも、たいてい男子である。見知らない女性が、しかも深夜にと思うと、不思議でならなかった。しかし、女中ばかりだといえば、強盗でないという安心はあった。

加賀のお奥という番頭の想像も、一応うなずかれる。藤兵衛は、奥方にもお姫様にもお目通りしたことがある。内密の火急の用事で、わざわざお使者が立ったのかも知れない。

「とにかく、対客の間へお通し申しておけ。またどんなことになるかも知れぬほどに、店の若い者を起して、万一に備えるように……」

と、いった。

藤兵衛は、相手がどんな①コウキコウキな人かわからぬと思ったので、紋服に着かえ、羽織袴をつけて対客の間へ出ていった。

そして、上座に着いている女性を見たときに、彼はアッと思わず声が出ようとするのを危く制したほどだった。彼は、今までにこんな美しい女性を見たことがないほどだった。

年は、十八、九だろう。美しい目鼻立で、眉は、当時のならわし通り、青陽の霞の隙に、夕張月のいる有様を似せて美しく描かれている。髪は、おすべらかしで、ふさふさと垂れている。紅梅の小袖に濃いみどり色のかいどりを着ている姿は、ろうたけて、（B）描いたようである。藤兵衛は、その美しさに打たれて思わず、平伏してしまった。

「これは、これはよくいらせられました。私が当家の主人藤兵衛でございます」と、いった。

すると、相手はニッコリ笑って、年の割には、しとやかで落ち着き払った声で、

「深夜を、おさわがせして、すみません」

と、いった。

「どちら様からの御使いか、またどんな御用でございますか、仰せられますよう」

と、藤兵衛は、いよいよ堅くなっていた。

C「他聞をはばかることでござりまするゆえ、もう少し近うお寄り下さいませ」

と相手は声をひそめていった。藤兵衛は、二間ばかり進んだ。

が、まだ、一間ぐらい離れていた。相手は、またえん然と笑って、

「今少し……」

と、いった。

藤兵衛は、また二、三尺すり寄った。相手は急に②シンケンな顔になったかと思うと、

「藤兵衛どの、妾が、これから申し上ぐることは、妻子けん族にも御他言無用でござるぞ。

御誓言下さいませか」と、いった。

藤兵衛は、再び平伏した。

「まことは、妾不忍池に鎮座ある弁財天からの御使者でござる。妾が、人間であるか、何者かの③化身であるかは、貴殿御所存にお委せいたします。ただ、妾が申しあぐることは、弁財天女の思し召しであることを、ゆめお疑い遊ばしますな、思し召しの旨は、ほかのことでございませぬ。今度の池浚いのことでございます。たとい、池が干上りましても、神変不思議の天女様の御身には、つつがは御ざいませぬ。ただ、あの池を命のつなとして、生きております八万四千の御けん族のことを、思し召されて、いたくお心を痛めておられます」

「御もつともで……」

藤兵衛は、自分が心配していた通りであつたので、なおさら④帰依の心をふかくした。

「ついでに、貴殿のことでございます。父祖三代御信仰の御一家のことを、天女様にも、仇やおろそかに思し召されてはおりませぬ。まして、こうした御危難の時には、一入心頼みに思し召されます。幸いのことに、お宅の池でございます。あの池のお社にも、天女様はいく度も、おこし遊ばして、池のことは御存じでございます。不忍池の周囲十町の間、あの池ほどの大きい池はございませぬ。たといありましても、天女様をお祭りしてある社などは、ございませぬ、ついでに、このたびの御危難から、御けん族どもをお救い遊ばす思し召しで、近々御けん族どもを、引きつれて、お宅のお池に当分の間おひき移りになることに、決定いたしました」

「ほほう」

D藤兵衛は、有頂天であつた。

「ついでには、それについて打ち合わせがございます。その夜は、神変をもって、雨をおふらせになります。夜中、雨がふりましたら、その夜こそ、お引き移りの日だと、お覚悟下さいませ。人目にふれることは、⑤キンモツでござりますゆえ、その夜は、日暮れと共に家人をいましめて、戸外へお出しになつてはなりません。何しろ、八万四千の御けん族ゆえ、時ならぬ物音が、いたすでございましょうが、かまえて戸外へは、何人もお出しにならぬよう、それが天女様より貴殿への、御言葉でございます。くれぐれも御違背遊ばさぬように、妾よりお願いいたします。天女様が、この邸内に鎮座ありましたならば、御家門の繁昌はどんなでございましょうか。おめでたいことが、次ぎ次ぎに起るでございましょうが、万一御違背遊ばす……」と、いいかけたが、すぐ、

「御帰依ふかい貴殿のことゆえ、左様のことは、万一でございますまい」

そういつて、口をつぐんだ。

藤兵衛にとつては、夢の中で、夢を見ているような、ありがたさであった。

藤兵衛が、控えさしていた女中たちが酒肴を運んで来たが、御使者は、それをふり向きもしないで、E暇をつげると、帰って行った。

藤兵衛は、その使者については、妻女にも、息子にも語らなかつた。越えて、六月二十五日の夜が、夜に入ってから大夕立となつた。藤兵衛は、家中を見廻つて、今夜は戸外に出ぬよう、たといいかなる物音がしても、⑥怪しんではならぬことをこんこんと云い渡した。

戌の刻を廻った頃から、雨は小降りとなつたが、その頃から、池の水面に、水音がしきりにし出した。藤兵衛は、さては御けん族たちが、飛び込むのだと思つて、随喜の涙をこぼしていた。時々、物を叩くような、物がこぼれるような音がした。藤兵衛は、天女の特別の恩寵にあずかる自分が、うれしくてたまらなかつた。

翌日は、晴天であつた。藤兵衛は、奉公人たちよりも早く起きて、池の渚に出た。さぞかし池は一杯の魚類だと思つていた。が、澄んでいる水の中には、鮒一疋泳いでいない。どこにも、水音一つしない。不思議に思つて、池の周囲を見渡していると、五つ並んでいる土蔵の壁が、みんな外から切られているのに気がついた。驚いて、家人を呼んで、検べて見ると、金銀を初め、めぼしい重宝は、跡形もなく盗み去られていた。

(菊池寛「弁財天の使」より)

*亥の刻……現在の午後十時前後。

戌の刻……現在の午後八時前後。

問一 傍線部①～⑥の漢字には読み仮名を振り、カタカナは漢字に直して解答欄に書きなさい。

問二 傍線部A「昵懇の人」、E「暇をつげる」の本文中での意味として適切な内容を、解答欄に書きなさい。

問三 空欄部Bには、その後にくる助動詞と呼応する「陳述の副詞」と言われるものが入る。
その副詞として適切なものを「ひらがな三文字」で解答欄に書きなさい。

問四 傍線部Cのような女性の態度は、これから女性が藤兵衛に話そうとする内容にどのような印象上の効果を与えると考えられるか。その内容的な効果について、考えられることを解答欄に書きなさい。

問五 傍線部Dにおいて、藤兵衛が有頂天になった理由として考えられるものを解答欄に書きなさい。

問六 問題文の最終段落「翌日は、晴天であった」以下を読むと、深夜秘かに藤兵衛のもとを訪れた女性たち一行の本当の目的は何であったと考えられるか。その目的について、あなたの考えを解答欄に書きなさい。

第3問 以下の各問に答えなさい。

問一 次の漢字の対義語を書きなさい。

- ① 喜劇
- ② 客観

問二 次の四字熟語の意味を書きなさい。

- ① 一心不乱
- ② 座右之銘

問三 次の漢字に読み仮名を振りなさい。

- ① 率直
- ② 疾病

問四 次の作家が書いた作品を一つ、漢字で正しく答えなさい（ひらがなは部分点、ただしひらがなの作品であればそのままの表記で構いません）。

- ① 宮沢賢治
- ② 川端康成